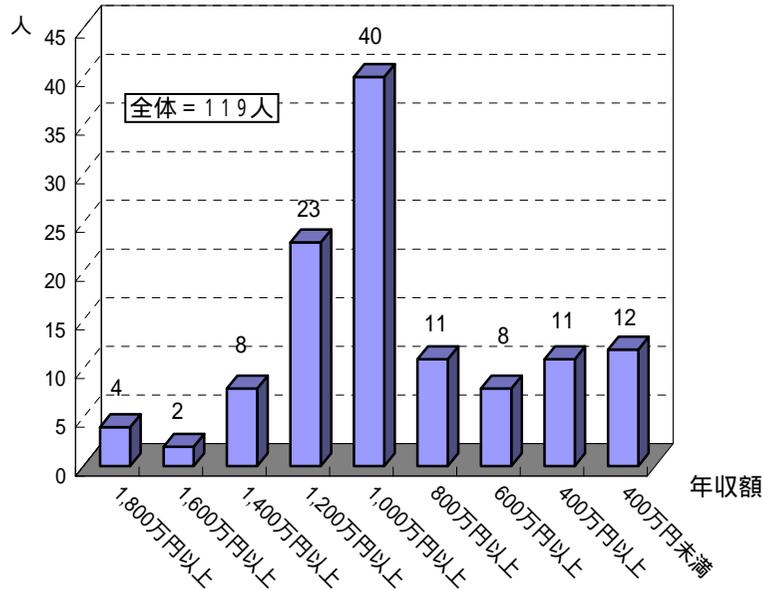


府内学校法人 経営者等の年収について

高校法人 役員の年収分布



【集計対象】

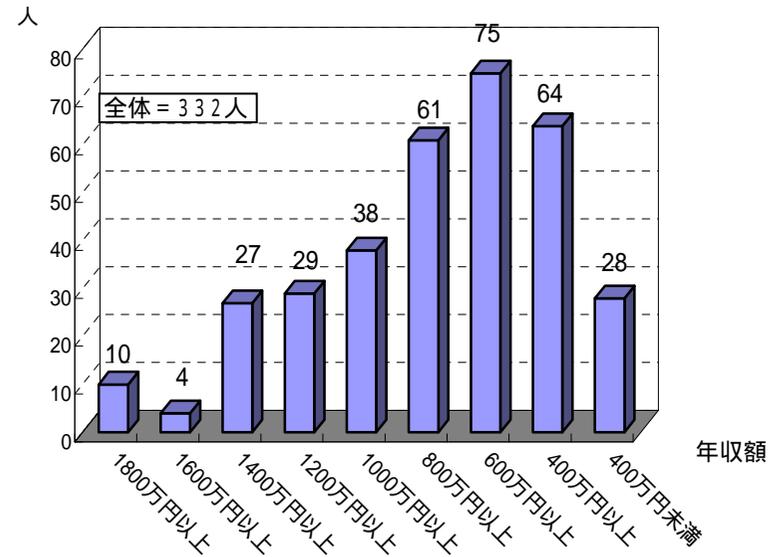
- 注1: 高校法人の理事長(非常勤含む)及び常勤理事のH18年度年収額
- 注2: 無報酬又はH19年度新任については、含んでいない。
- 注3: 多くの役員が、校長などの職を兼ねている。(計99人/119人)

平均年収額 10,255千円
参考: 府立高校の校長の平均年収は、11,328千円

1,000万円以上1,200万円未満が最も多い。

役職が異なるため単純には比較できないが、府立高校校長平均年収の合計と比較すると、私立が約1億2,700万円下回っている。

私立幼稚園 専任園長の年収分布



【集計対象】

- 注1: 平成19年度補助対象専任園長の平成18年度平均年収額
- 注2: 平成19年度新任及び転入者は含んでいない。
- 注3: 園長は、基本的に理事に就任。
- 注4: 常勤の役員以外については、役員であることのみをもって、報酬は支給していない。従って注3のとおり、理事長兼園長となるケースが多い。

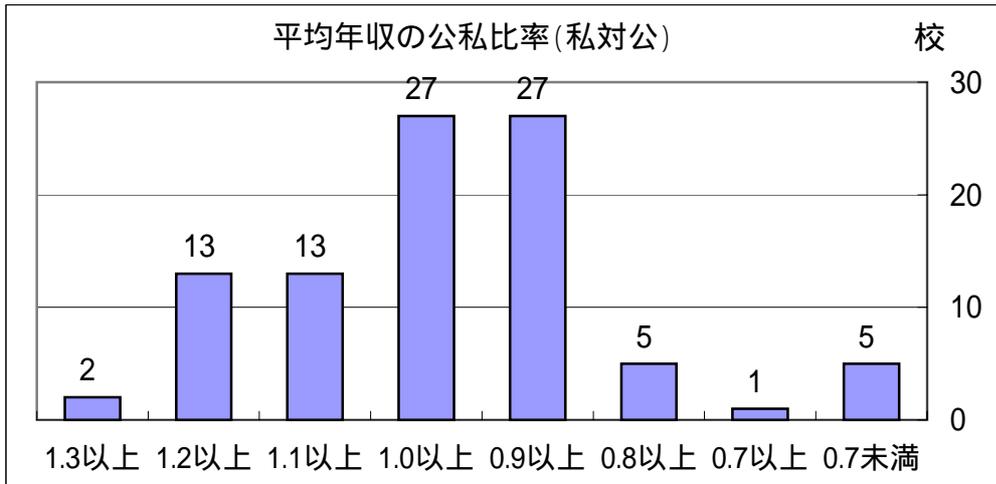
平均年収額 870万円(各種手当含む支給総額)
参考: 公立幼稚園の園長平均年収は、約1000万円

600万円以上800万円未満が最も多く、1,000万円未満が全体の約7割を占める。

公立幼稚園園長の平均年収と比較すると、全体では、私立が4億3,000万円下回っている。

高校人件費の公私比較について

【専任教員の年収比較】



専任教員の平均年収は、私立は公立の1.06倍

ただし、府立の水準以下の学校も約4割ある

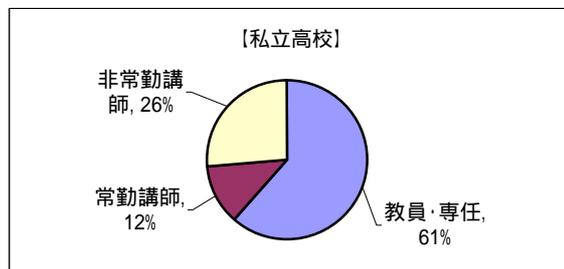
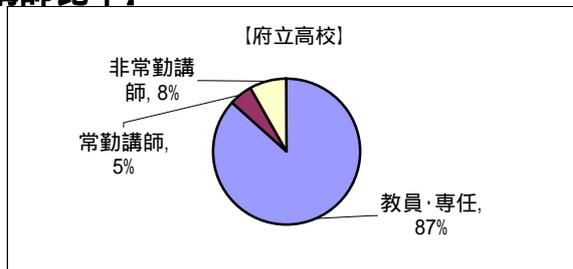
(単位:千円)

職名	人数	私立	公立	差	私対公
専任	3,415人	8,692	8,229	463	1.06

私立の年収は、H19年度基礎資料調査における、H18年の実支給額。(新規雇用などにより実支給額が0の者や、兼務の者は除いている。)

公立の年収は、給与実態調査に基づいた各年齢の標準給与月額に、平均の手当率などを加味して、各年齢の年収を算出した上で、私立の各教員に当てはめたもの。従って、実際の公立の教員の年収とは異なっている。

【講師比率】



H19.5.1現在 非常勤講師については、16時間で1人換算

私立は公立に比して、専任教員の比率を抑えて人件費を抑制している。(下記参照)

また、専任・常勤講師一人当たりの生徒数は、私:公 = 17.6人:14.9人と私立の方が過重である。

【生徒一人あたり経費】

区分	府立高校		私立高校		公私の差 単価(千円)
	単価(千円)	構成比(%)	単価(千円)	構成比(%)	
教職員人件費	774	80.6%	695	72.1%	79
退職手当	83	8.6%	71	7.4%	12
人件費計	857	89.3%	766	79.5%	91
その他経費	103	10.7%	198	20.5%	-95
計	960	100.0%	964	100.0%	-4

仮に、公立の教職員の人件費を1割カットしても、 $774 \times 0.9 = 697$ 695と、ほぼ同じ水準。

生徒一人あたりの人件費は、私立の方が約9万円低く、私立高校の生徒数が約8万人であるので、約72億円の人件費を節約している。

私立高校は、公立や他の私立高校との競争が激しいため、人件費を節約した上で、教育環境の充実(修繕費、光熱水費、消耗品費等)や私学固有の経費(奨学費、広告費等)に、府立高校と比較して、多くの経費を投入している。